



筑波大学メールマガジン ペデジャーなる 2019年-秋号-

OG・OBと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

## INDEX

・目次

1. 『原生生物の秋?!』 / 吉永真理  
原生生物学会参加レポート
2. 『秋の味覚を楽しもう』 / 山野実菜  
寒さに負けずに!
3. 『雙峰祭の大看板』 / 森賀遼太  
学園祭の新シンボル
- 4 『卒業しても色あせない! 溢れるつくば愛』 / 越智小夏  
比文のホームカミングデーに参加しました
5. 『被害額は約4900万円…つくばでも猛威』 / 木村誠  
台風19号とつくばの防災実験施設



# 1 原生生物の秋？！



原生生物――

真核生物のうち動物・植物・菌類のどれにも属さないものの総称（大辞泉より）

秋も深まって参りましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

芸術の秋、食欲の秋……とさまざまありますが、私にとって今年は「原生生物の秋」でした。というのも、学部4年にして初めて参加した学会が10月に開かれた「原生生物学会」。私は、あるタンパク質が原生生物でどのような多様性を持つか、をテーマにした口頭発表で参加しました。今回は刺激的な体験となったこの学会について書こうと思います。

冒頭に述べました通り、原生生物とは単体の生物を指すのではなく、大きなグループを意味します。よく分からない小さな生き物全体、つまるところ「微生物」です。ミドリムシやアメーバなど理科の教科書で見かけるものから、マラリア原虫やトキソプラズマのように病原体となるものまで、さまざまな種が存在します。

原生生物学会は、それらの小さな生き物をただ愛でる会ではありません。彼らの構造や機能、遺伝子を調べることで、生物全体に当てはまる重要な仕組みを明らかにするのです。原生生物はそのほとんどが単細胞ですので、ヒトやマウスなどの大きな生物では調べにくい現象も容易に観察することができます。

学会は、茨城大学の水戸キャンパスで3日間開催されました。1日目に行われたのは、原生生物学を志す若手研究者の集まり、「若手の会」主催のシンポジウムです。「研究者のキャリア」をテーマに、ワークライフバランスや研究の魅力などさまざまな議題で盛り上がりました。会場は終始和やかな雰囲気にもまれており、学会に対するお堅いイメージがここで払拭されたように感じます。

その後の懇親会では、他大学の学生と交流する機会に恵まれました。私の所属する研究室では女子が自分一人だけなのですが、同じように原生生物を研究する他大学の女の子達とお話できて嬉しかった記憶があります。

そして2日目。いよいよ発表の時です。会場には学生や教授、研究者がざっと40人ほど見受けられました。大勢の前で話すことが苦手のためとても緊張しましたが、「不安が

ある時ほど堂々としろ」といった趣旨の先輩の言葉を思い出し、修士2年くらいになった気持ちで挑みました。

質疑応答で受けた指摘に上手く答えられず少しの悔しさが残ったものの、発表自体は滞りなく終わったように思います。上手くいったのは発表練習での先生や先輩方のご指導のお陰ですが、初めてにしては頑張ったなと思い、さらに、別の研究室の先生に「面白かった」と声をかけていただけたことは自信になりました。

発表のあとは茨城大学近くの喫茶店、「ピッチャーゴロ」で昼食をとることに。ここでは注文した生姜焼き定食に驚きました。とにかく量が多く、ご飯は軽く1合あるのでは…と思ったほどです。先生にご馳走になる手前、残すことはできないと最後まで頑張って食べたことも、発表後の高揚感とともに忘れられない思い出となりました。



(「ピッチャーゴロ」の生姜焼き定食。食後に激甘アイスコーヒーがついてきたことも印象的でした)

前日までの緊張が解け、晴れやかな気持ちで迎えた最終日。この日は大会シンポジウムが行われました。最先端の研究について、数々の発表を浮かれ気分で聞いていたところ、ある研究者の発表に頭をガツンと殴られた気がしました。わずか12分の発表に心底感激したのです。

淡々と語られる明快で鮮やかな論理展開と、それを支える圧倒的なデータ量。仮説を検証するための実験機器をゼロから作る一幕もあり、やれることは全部やる、という執念を感じました。詳しい内容を述べられないので何ともぼんやりした表現になってしまいますが、何か凄まじい勢いがあり、その場の空気感で会場全体が唸っていることが分かりました。全てのスライドが終わったあとに世界観の余韻に浸った発表は初めてでした。

比較するのもおこがましいですが自分の研究を思い出し、なんて小さなことで満足していたのだらうと恥ずかしくなりました。結果に対し、だから何なのだという論理展開や、仮説を検証する方法の考案も何もできていないということに気が付いたのです。こんなと

ころで浮かれていたら駄目だ、と身が引き締まると同時に今後のモチベーションが高まった瞬間でした。

参加する前は口頭発表が不安でやめたいなと思った時もありましたが、自分の発表だけでなく、コミュニティでの交流ができたこと、研究のモチベーションを得られたことを含め、とても貴重な体験となりました。学会で得たことを生かしてこれからの研究生活を頑張ろうと思います。

(生命環境学群 生物学類4年 吉永真理)



## 2 秋の味覚を楽しもう



台風が過ぎ去り、一気に寒さがまし、もう冬かという気候になっている今日この頃、しかし忘れてはいけません！食欲の秋です。秋といえば栗、芋、秋刀魚……美味しいものがたくさんありますよね。たくさんのお店で様々な種類の期間限定の商品が出ています。今回は大学内にある、粉とクリーム（以下：粉クリ）さんで販売されている秋の味覚が楽しめるパンを紹介したいと思います。

一つ目は季節のフレンチ（かぼちゃ）です。通常あるフレンチトーストのかぼちゃ味が2学粉クリにて登場しました！実際に食べてみると、ほんのりとしたかぼちゃ風味によって甘みが強まった感じがしました。

二つ目は季節のフレンチ（紫いも）です。こちらは3学に登場。紫芋のペーストが入っており、通常のものより少し重みがあり、上品なお味でした。どちらのフレンチもフワフワでべろっと食べてしまいました。



お次は3学粉クリで最近登場したデニッシュたち。こちらは期間限定ではなく通常商品として登場しているようですが、秋らしいマロンやハロウィン（過ぎてしまいましたが）を感じさせるかぼちゃ味です。デニッシュはサクツとしていますが、栗やかぼちゃのコクによってとても味わい深いデザートパンでした。



今回紹介したのは粉クリ商品だけでしたが、他にもたくさん秋の味覚が出回っているはずです。寒さに惑わされず、食によって季節を堪能していきましょう。

(人文・文化学群 比較文化学類 3年 山野実菜)





### 3 雙峰祭の大看板



11月2日から4日まで、筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されました。毎年3万人以上が来場する、筑波大の最も大きなイベントの一つです。雙峰祭の開催に向け、1年前から着々と準備を進める学園祭実行委員会（通称：実委）をみなさんご存知でしょうか。今回は実委のなかでも新たなシンボル「大看板」を制作した担当者に取材しました。

大看板とは、文字通り縦3桁、横3.5桁の巨大で自立した看板です。人間系学系棟と人文社会学系棟の間に設置されていました。



（雙峰祭開催中に設置された大看板。製作者の方々が並んでいます。）

実委担当者の川端優実さん（芸術専門学群2年）と小澤政貴さん（人文学類2年）によると、企画のコンセプトは来場者の「パッと目を引くような印象的なオブジェ」、「つくばらしさ」を感じてもらうこと。他大学の学園祭などの看板を参考にしたそうです。

川端さんによると、こだわりは筑波山地産の木材（スギ）を看板の骨組みなどを使って制

作しているところ。そもそも学園祭の名前「雙峰祭」の「雙峰」は筑波山を表しており、材料にも「つくばらしさ」をにじませています。

木材は橋本剛准教授(芸術系)の紹介により、筑波山地産の木材を取り扱う上林製材所(茨城県石岡市)で購入。骨組みなどの設計には橋本准教授と橋本研究室に所属する栗原広佑さん(人間総合科学研究科芸術専攻博士後期2年)が協力し、安全性を確保したそうです。

看板にはロケットや自転車などのつくばの「名物」をデフォルメしたモチーフがあしらわれていました。開催前、看板のデザインについて川端さんは「つくばへの親しみやすさを感じてもらえるようにしたい」とお話ししていました。



(製作中の様子。組み立てるだけでも相当の労力が必要そうでした。)

デザイン考案には実委のメンバーだけでなく、大脇僚介さん(芸術専門学群2年)も参加。開催前、大脇さんは「普段、こんなに大きな作品を制作する機会はめったにない。せっかくのチャンスなのでとにかく面白い作品を作りたい」と意気込んでいました。

雙峰祭終了後、製作者の方たちにお話を伺いました。川端さんは「自分の身長の数倍ある看板を見上げることができたときは、涙がどうしても溢れてしまいました。じっくり見てくれる人や写真を写してくれる人を見て、やってきたことが報われたなと思いました。作品制作に尽力してくれた方々に改めて感謝申し上げます」と仰っていました。

大脇さんは「作品が完成して、写真を撮ってくれる人もいたみたいで嬉しかったです。ただ、デザインだけではなくて、実物をつくるとなると、作る過程で色々と上手くいかないことが生まれて苦労しました。今回気づけたことを自分の作品作りにも活かしていきたいです。」と話していました。

今回は雙峰祭を支える裏方を取材しました。読者の皆さんも学生だった当時の雙峰祭の様子を思い出していただければと思います。

(社会・国際学群 社会学類3年 森賀遼太)





## 4 卒業しても色あせない！溢れるつくば愛



突然ですが、みなさんの「ふるさと」とはどこですか？

私のふるすとは、地元である愛媛県の松山市です。青い海やみかん畑に囲まれた、時間の流れが穏やかな港町が私のふるさとです。

そんな私にとって、つくば市はまさに異国の地でした。慣れない寒さやだだっ広い関東平野に、入学してしばらくはただただ戸惑い、ふるさと松山市に帰りたいと何度も何度も思っていました。4年生になってもやはり、わたしの「帰る場所」といえば松山市。つくば市は正直、卒業までの仮住まいのような感覚でした。

しかし今年10月、そんなつくば市への印象を変えてくれたイベントがありました。比較文化学類ホームカミングデーです。ホームカミングデーでは、たくさんの卒業生がつくばの地に帰ってきてくださいました。1年前に卒業した人から、「第二学群」時代の大先輩まで年代もさまざまで、中には比文のトレードマークであるオレンジ色の法被を着て参加されている方も。

イベントでは、テーブルごとに分かれて行われたフリートークの他に、イベントも行われました。特に盛り上がりを見せたのは、出されたお題にあった人を探し出す「借り人」競争。



「つくばエクスプレスがなかった時代に在学していた人」や「『学費』が何のことか分かる人(※)」など、時代を象徴するお題では、「4年もつくばにいたけどそんなこと初めて知った！」と驚きの声が上がりました。

「宿舎で大変な思いをしたことがある人」など、世代を超えた「あるあるネタ」では、「壁

にカビが生えた」、「共用のシャワー室が原因で水虫が蔓延した」…など、エピソードトークが絶えませんでした。

違う時代に学生時代を過ごしたにもかかわらず、その場にいる全員から同じく伝わってきたのは、つくばに対する大きな愛。来春からは私もつくばを離れ、社会人として働き始めます。懐かしそうな目で当時を振り返る卒業生の方々の様子を見て、いつか私も、つくばを懐かしく思い出す日が来るのかなと思いました。

読者の皆様も、疲れた時や寂しい気持ちになった時は、是非私たちのふるさとつくばに帰ってきて下さい。

※学費…2学と3学の間にある噴水のこと。Twitter上ではネタの意味で「学費」と呼ばれている。

(人文・文化学群 比較文化学類4年 越智小夏)





## 5 被害額は約 4900 万円…つくばでも猛威



東日本各地に甚大な被害をもたらした台風 19 号。河川の氾濫や住宅の浸水など、多くの人が被害を受けています。10 月 27 日現在、死者は 88 人、行方不明者は 7 人となりました。

水戸地方気象台によると、つくば市では、12 日に最大瞬間風速 32.5 メートルを観測。市内には大雨特別警報などが発令されました。また、市内 2 地区の約 300 世帯、約 90 人に避難指示、39 地区の約 1 万 500 世帯、約 2 万 7000 人に避難勧告が出されていました。

筑波大学では幸い、人的被害はありませんでしたが、施設などに被害がありました。筑波大学施設部によると、被害額は概算で約 4900 万円（10 月 28 日現在）に上る見込みだそうです。

筑波キャンパス内では、高さ 14 メートルの体芸テニスコートの照明が根元で破断し、コート内に倒壊しました。施設部は、倒壊した照明を撤去するとともに、倒壊しなかった同じタイプの照明についても点検しました。



(台風で倒れた体芸テニスコートの照明＝体芸エリアで)

また、同キャンパスでは雨漏りが 77 カ所で発生しました。加えて、学内ループを中心に倒木や枝折れが発生しました。39 本の倒木と 21 本の枝折れも確認されています。



(写真左・台風通過直後のループ道路＝筑波キャンパス北地区で)



(写真右・台風で倒れた樹木がごみ集積所を直撃＝一の矢学生宿舎で)

5C 棟内の教室では、天井の石膏ボードがはがれ、一部の講義が休講になったり、教室が変更になったりしました。また、学内の複数の箇所で雨漏りによって天井の石膏ボードがはがれ、床に落ちてしまっていました。

筑波大の附属学校でも被害がありました。神奈川県横須賀市の久里浜特別支援学校では、校舎屋上の防水シートが大きくはがれてしまいました。復旧には約 260 万円かかる見込みだそうです。このほか、雨漏りは附属学校 6 校で確認されています。

静岡県下田市の筑波大学下田臨海実験センターでは、付近の市道が陥没し、その下に埋設されていた同センターに海水を運ぶ配管が破損しました。



一方で、つくばには「災害に強い社会の実現」を目標に掲げる研究施設があります。

筑波大学と隣接する国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)つくば本所では、防災に関する科学技術の研究をしています。1963 年、東京に開設され、1978 年には本所がつくばに移転しました。本所のほか、全国各地に実験施設や観測施設があります。

防災科研つくば本所には、世界第 2 位の大きさを誇る 14.5m×15m の大型テーブルで大規模な耐震実験を実施できる「大型耐震実験施設」があります。また、世界最大級の規模・能力を有する散水装置を備えた「大型降雨実験施設」では、ゲリラ豪雨(毎時 300 ミリ・6 ミリの雨粒)を再現することができるそうです。



(防災科研つくば本所の大型降雨実験施設＝同所資料より)

10月2日には大型降雨実験施設で、防災科研と住宅メーカーの一条工務店がゲリラ豪雨や洪水の対策をした「耐水害住宅」の公開実験をしました。

耐水害住宅は、玄関のドアや窓ガラスの隙間から水が入らないように「パッキン」を取りつけたほか、家の壁面には防水塗料や防水シートを使用。また、床下の換気口部分を、水位が上昇すると自然に閉じる仕組みにすることで、床下浸水を防いでいます。豪雨時に下水の逆流を防ぐため、風呂やトイレなどの排水管には逆流防止弁をつけています。被災後のライフラインを確保するため、エアコンの室外機や、太陽光発電の装置などは高い位置に取りつけるなどの工夫をしているそうです。

実験では、同施設内の地面を掘削、大型の貯水槽を作り、その中に耐水害住宅と一般的な住宅を建設。洪水を想定して水槽に大量の水を注いだり、ゲリラ豪雨を再現したりした結果、一般的な住宅が床下・床上浸水したのに対し、耐水害住宅は床上まで水位が上がっても室内への浸水はなかったそうです。報道によると、年内には商品化を発表したい、とのことでした。

防災科研つくば本所は毎年4月頃に一般公開されています。それ以外でも、団体での施設見学もできるそうです。つくばにお越しの際は、防災研究の最前線を見てみてはいかがでしょうか。

(人文・文化学群 人文学類3年 木村 誠)



## 編集後記

まずは、この度の台風による被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

記事にもありました通り、筑波大学では建物の被害はありましたが、幸いけが人などは報告されておられません。被災された地域の日も早い復旧をお祈りいたします。

学内では、一大イベントである雙峰祭も終わり、1，2年生は期末テスト、3年生は就活、4年生は卒論が佳境に入りと、それぞれ忙しい日々を過ごしています。今年も残すところあと1ヵ月。暗い話題も多かった2019年ですが、今回の秋号が、懐かしいつくばを思い出し、明日への力になることを願います。

(人文・文化学群 比較文化学類4年 越智小夏)



# 筑波大学の ホットな話題

🍁 26年ぶり 筑波大学が箱根駅伝に出場！！



10月26日の箱根駅伝予選会で昨年17位だった筑波大学が43校中6位に食い込み、26年ぶり61回目の箱根駅伝本戦出場の切符をつかみ取りました。「筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト」の始動から9年目の快挙になります。

令和2年の1月2日、3日はお茶の間で、沿道で、選手たちに熱い声援をお送りください。

現在、駅伝チームの選手たちはシード権獲得のために必死に頑張っています。この選手たちを応援するために、クラウドファンディングを実施していますので、ぜひともご支援・ご寄附のご協力をお願いいたします。

▼▼筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト▼▼

<http://tsukuba-hakone.win/>

▼▼クラウドファンディング▼▼

<https://readyfor.jp/projects/TeamTsukubaHakoneEkiden>

## 🍷 OB・OG キャリアカフェを開催

10月16日、大学会館にて筑波大学の同窓会組織である茗溪会主催のOB・OG キャリアカフェが開催されました。

様々な業界で活躍している卒業生が平日にも関わらず集まり、筑波大生に向けて働くにあたっての心構え、キャリア形成、学生生活の過ごし方などについてじっくり話し合いをしました。

自分たちの先輩だからこそ聞ける社会人としてのリアルな話を聞き、学生にはない経験や価値観に触れることができたこと、学生たちは満足していました。

次回は令和2年6月の開催を予定しています。



## 🌸 筑波大学のいろいろな取り組みのご紹介

### 🍷 【もうすぐ終了】 嘉納治五郎・金栗四三特別展 12/25 まで



東京高等師範学校(現筑波大学)出身の、「日本マラソンの父」金栗四三の半生を描いた大河ドラマ「いだてん」が1月6日から放送になりました。ドラマには、金栗の才能を見出した「柔道の父」「教育の父」として知られる嘉納治五郎(東京高等師範学校校長)など、本学ゆかりの人物・時代背景などが登場します。

これを記念して、『嘉納治五郎・金栗四三 特別展』を会場を分けて同時開催しております。各会場では、金栗

四三が練習用に履いていた足袋をはじめとする本学とオリンピック・パラリンピックのかわりなど多数を展示しています。

また、筑波大学サテライトオフィス及びつくば市交流サロン(BiViつくば内)において、「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)～」の番組展を開催しております。「番組紹介パネル」「出演者等身大パネル」「衣装」や「小道具」を展示しています。併せてご覧ください。

主催：NHK サービスセンター

後援：NHK 水戸放送局

▽▼詳細はこちら▼▽

<http://www.tsukuba.ac.jp/event/e201901221125.html>

## 🍁 筑波大学カード 12/1 からキャンペーン実施中

筑波大学公式クレジットカード「筑波大学カード」新規入会者募集中です！

今なら新規お申込みの方に 2000 円のプレゼントキャンペーンを実施しています。



インターネットからもお申込みいただけますので卒業生の皆様もぜひご利用ください！

### 《筑波大学カードをご利用の場合》

- ・利用金額の一部が筑波大学基金へ寄附
- ・サービス協力店舗での優待利用可能

詳しくは、<https://alumni.tsukuba.ac.jp/cashcard.html> をご覧ください。

- 🍷 筑波大学 公式ホームページ: <http://www.tsukuba.ac.jp/>
- 🍷 筑波大学 facebook : <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>
- 🍷 筑波大学 Futureship facebook : <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.futureship>
- 🍷 筑波大学交流広場「KUTTUK ba」 : <https://alumni.tsukuba.ac.jp/>

(筑波大学交流広場／筑波大学生涯メールアドレス 利用登録募集中！)

- 🍷 編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- 🍷 デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
- 🍷 ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

**メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。**

**© 2019 University of Tsukuba.**